

奥山にもみぢ踏み分け 鳴く鹿の
声聞く時ぞ 秋は悲しき

天の原ふりさけ見れば 春日なる
三笠の山に出でし月かも

わが庵は 都の辰巳 しかぞ住む
世をうち山と 人はいふなり